

日本学術会議主催学術フォーラム・第 11 回防災学術連携シンポジウム(案)

「東日本大震災からの十年とこれから」
～58 学会、防災学術連携体の活動～

“10 Years Memorial and Beyond Great East Japan Earthquake”
58 Academic Societies and Japan Academic Network for Disaster Reduction

主 催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会
防災学術連携体(58学会)

日 時：令和 3 年 1 月 7 日(木)または 14 日(木)
10 時から 17 時

場 所：東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂、または建築会館ホール

趣 旨：

2011 年東日本大震災の甚大な被害から十年が過ぎる。この期間にも日本の各地で多くの自然災害が発生した。これらの災害について、多くの学会は調査研究、記録、提言、支援などを続けてきた。大震災後十年を迎えるにあたり、防災学術連携体の各構成学会と防災減災学術連携委員会の委員が、東日本大震災の経験とその後の活動への展開を振り返り、今後の取り組みについて発表する。

防災学術連携体の前身である「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」の三十学会共同声明(2012 年 5 月)を振り返り、今後の防災・減災、学会連携について議論する。

配布資料：東日本大震災十周年「防災学術連携体・58学会の記録」

各構成学会、防災学術連携体、防災減災学術連携委員会から各 2 頁の寄稿を集めた冊子を配布する

次第： 司会 防災学術連携体
開会挨拶 日本学術会議 防災減災学術連携委員長
来賓挨拶 内閣府 防災担当 政策統括官
趣旨説明 日本学術会議または防災学術連携体

・幾つかのセッションに分かれて、各学会の発表・または資料提供(58学会、学術会議より募集)を行う。

・セッションは応募された発表内容をもとに設定する

セッション(案)(東日本大震災後の取組みを中心に)

1. 東日本大震災の全容解明と十年間の復旧・復興の総括
2. 原子力発電所事故の復旧・廃炉の現状と放射能汚染の長期的影響
3. 東日本大震災とその後の自然災害が社会に与えた影響と今後の長期的影響
4. 自然災害軽減と復旧・復興に関わる住民・地域・自治体・政府等への提言
5. わが国の国土利用計画、都市計画、まちづくり、人づくりと防災・減災対策のあり方
6. 今後の防災・減災分野の研究のあり方、自然科学分野および人文・社会科学分野を含む多様な連携のさらなる推進
7. その他

(スケジュール案)各学会に上記計画案を提示し意見を集めた上で、シンポジウム開催 6 ヶ月前の 7 月中を目処に各学会・日本学術会議委員に案内を出す。